# シラバス詳細

タイトル「2025年度」、カテゴリ「札幌校」

## 科目情報

| | |
|---|---|
| **科目名**<br>情報教育実践論 | **クラス**<br>01 |
| **担当教員**<br>佐藤　正範 | **実務経験のある教員による講義** |
| **開講学期**<br>前期 | **開講時期**<br>1Q |
| **曜日・時限**<br>金４、金５ | **講義室**<br>未来の学び「教室」／未来の学び「教室」 |
| **科目種別** | **ナンバリング**<br>USY-MSG-3-008J |
| **科目区分**<br>道徳･生徒指導等 | **単位区分**<br>選必 |
| **単位数**<br>2 | **準備事項** |
| **備考** | **直接参照URL**<br>https://huelc-eis.hokkyodai.ac.jp/lcu-web/SC_06001B00_22/referenceDirect?subjectID=202800011384&formatCD=1 |

## 講義情報

### 授業形態

講義とPCを使った演習

### 授業概要

これまで社会にICT機器が導入された経緯やプロセスをふまえ、Society5.0時代の情報活用の在り方を検討する。また、学校におけるGIGAスクール構想に対応した授業づくり、コミュニケーションにおけるICT（情報通信技術）活用、情報活用能力の育成、校務の情報化等の方法や先進実践、デジタル時代の「読み・書き・そろばん」である数理・データサイエンス・AIに関する基礎的な内容を学ぶとともに、ICTを活用したよりよいコミュニケーションについて企画立案できる素養を育む。

### 対応するディプロマ・ポリシー

#### 教員養成課程

教育に関する理論及び方法を活かし，教育実践を展開する基礎を身に付けている。
学校づくりを担う一員としての役割を理解し，社会性やコミュニケーション能力を養い，地域等と連携・協働する態度を身に付けている。

### 到達目標

・社会にコンピュータ等が導入されてきた経緯や活用状況の現状を理解する。
・ICT機器を活用することの意義や課題、今後の活用方法を説明できる。
・ICT活用及び情報活用能力育成の方法を理解し、必要なコミュニケーションに活かすことができる。
・デジタル時代の「読み・書き・そろばん」である数理・データサイエンス・AIに関する基礎的な内容（数理・データサイエンス・AIを学ぶことの意義や社会における利用動向・問題、基礎的な技術の概要）を学ぶ。

### 授業計画

第１回：情報共有の基礎
第２回：Society5.0及びAI時代の社会と教育
第３回：プログラミング教育から情報を考える①（基礎）
第４回：プログラミング教育から情報を考える②（応用）
第５回：EdTechの活用① (データの収集)
第６回：EdTechの活用② (データの編集)
第７回：EdTechの活用③ (データの表現)

第８回：数理データサイエンス①（基礎）
第９回：数理データサイエンス②（応用）
第10回：社会における生成AI利用を考える
第11回：機械学習の基礎
第12回：情報モラル教育とデジタルシティズンシップの育成
第13回：コミュニケーションデザインの立案
第14回：コミュニケーションデザインの実装
第15回：デジタルアーカイブの作成

## 成績評価

【評価方法】
授業における課題とリフレクションを点数化して行う。
授業内外の課題（80%）、リフレクション（20%）

【評価基準】
Ａ…９０点以上
Ｂ…８０～８９点
Ｃ…７０～７９点
Ｄ…６０～６９点
Ｆ…５９点以下

【欠席の取扱い】
全ての講義に出席することが前提となります。ただし，やむを得ない理由により欠席した場合は，課題の提出などによって出席に代えます。

## 教職チェックリスト

### 1 学習指導

・学習意欲に関する理解、教育課程の意義や編成の方法、教授方法や教授技術、教材論（教材・教具や情報機器の基本的な活用法を含む）
1-3-2-3 授業づくりの資料収集・資料作成、教材・教具作成にICT機器や書籍を有効に活用する。
1-3-3-6 授業での子どもの状況把握や評価のためにICT機器を有効に活用する。

## 教職チェックリスト（自由記述）

## テキスト

『ICTを活用したこれからの学び』2022年10月，一莖書房（いっけいしょぼう）
※テキストは学生生協に近日中に入荷予定です。

## 参考文献

・佐藤昌宏（2018）EdTechが変える教育の未来，インプレス
・堀田龍也ほか（2020）学校アップデート，さくら社

## 関連する授業科目

情報機器操作：基本的なPCの操作や、ファイルやフォルダの扱い、Office等のソフトウェアの利用に慣れておいてください。PCの操作が苦手な学生さんでも楽しく内容を理解できるように活動的な講義を行います。

## オフィス・アワー

月曜 10:00-12:00　札幌校 A研究棟 505号研究室
メール受付：sato.masanori@s.hokkyodai.ac.jp

## 備考（履修上の注意等）

金曜日4-5時限（２コマ連続）での実施を基本とし、おおよそ１Ｑで講義は終了予定のクォーター制で実施します。
4/11(1コマ)～毎週金曜(5/9と6/6は休講)～ 6/13最終回予定で合計15回分となります。
コンピュータを積極的に活用しながら授業を進めます。お持ちのノートパソコン（インターネットに接続ができるもの）をご持参ください。
実施教室：確定次第、LCU等で連絡を行います。
受講者の人数によって、教室の変更や、ワーク形式での活動を行う場合があります。

## 教育実習やインターンシップ等

## 実務経験

有：授業担当者は元建築設計デザインのエンジニアを務め、札幌市公立小学校６年間、東京学芸大学附属小学校６年間、企業と学校現場での実務経験がある。ICT活用やプログラミング教育の実践研究を重ねてきた経験等を学生と共有しながら、学生さんのアクティブラーニングを土台として講義を進めていきます。

# シラバス詳細

タイトル「2025年度」、カテゴリ「旭川校」

## 科目情報

| | |
|---|---|
| **科目名**<br>情報教育実践論 | **クラス**<br>01 |
| **担当教員**<br>佐藤　正範、教育支援G　旭川 | **実務経験のある教員による講義** |
| **開講学期**<br>後期 | **開講時期**<br>3Q　～　4Q |
| **曜日・時限**<br>集中講義 | **講義室**<br>N217、N217 |
| **科目種別** | **ナンバリング**<br>UZZ-MSG-3-008J |
| **科目区分**<br>道徳･生徒指導等 | **単位区分**<br>選 |
| **単位数**<br>2 | **準備事項** |
| **備考** | **直接参照URL**<br>https://huelc-eis.hokkyodai.ac.jp/lcu-web/SC_06001B00_22/referenceDirect?subjectID=202800011594&formatCD=1 |

## 講義情報

### 授業形態

講義とPCを使った演習

### 授業概要

これまで学校にICT機器が導入された経緯やプロセスをふまえ、Society5.0時代の教育の在り方を検討する。また、授業におけるICT（情報通信技術）活用、情報活用能力の育成、校務の情報化等の方法や先進実践、デジタル時代の「読み・書き・そろばん」である数理・データサイエンス・AIに関する基礎的な内容を学ぶとともに、ICTを活用した授業づくりや情報活用能力を育む授業プランを作成して検討することで、具体的な指導計画をたてる。

### 対応するディプロマ・ポリシー

#### 教員養成課程

教育に関する理論及び方法を活かし，教育実践を展開する基礎を身に付けている。
学校づくりを担う一員としての役割を理解し，社会性やコミュニケーション能力を養い，地域等と連携・協働する態度を身に付けている。

### 到達目標

・学校現場において視聴覚機器やコンピュータ等が導入された経緯やプロセスを理解する。
・学校現場においてICT機器を活用することの意義や課題、今後の活用方法を説明できる。
・授業におけるICT活用及び情報活用能力育成の方法を理解し、指導計画を立案できる。
・デジタル時代の「読み・書き・そろばん」である数理・データサイエンス・AIに関する基礎的な内容（数理・データサイエンス・AIを学ぶことの意義や社会における利用動向・問題、基礎的な技術の概要）を学ぶ。

### 授業計画

第１回：情報共有の基礎
第２回：Society5.0及びAI時代の社会と教育
第３回：プログラミング教育から情報を考える①（基礎）
第４回：プログラミング教育から情報を考える②（応用）
第５回：EdTechの活用① (データの収集)
第６回：EdTechの活用② (データの編集)
第７回：EdTechの活用③ (データの表現)

第８回：数理データサイエンス①（基礎）
第９回：数理データサイエンス②（応用）
第10回：社会における生成AI利用を考える
第11回：機械学習の基礎
第12回：情報モラル教育とデジタルシティズンシップの育成
第13回：コミュニケーションデザインの立案
第14回：コミュニケーションデザインの実装
第15回：デジタルアーカイブの作成

## 成績評価

【評価方法】
授業における課題とリフレクションを点数化して行う。
授業内外の課題（80%）、リフレクション（20%）

【評価基準】
Ａ…９０点以上
Ｂ…８０～８９点
Ｃ…７０～７９点
Ｄ…６０～６９点
Ｆ…５９点以下

【欠席の取扱い】
全ての講義に出席することが前提となります。ただし，やむを得ない理由により欠席した場合は，課題の提出などによって出席に代えます。

## 教職チェックリスト

### 1 学習指導

・学習意欲に関する理解、教育課程の意義や編成の方法、教授方法や教授技術、教材論（教材・教具や情報機器の基本的な活用法を含む）
1-3-2-3 授業づくりの資料収集・資料作成、教材・教具作成にICT機器や書籍を有効に活用する。
1-3-3-6 授業での子どもの状況把握や評価のためにICT機器を有効に活用する。

## 教職チェックリスト（自由記述）

## テキスト

『ICTを活用したこれからの学び』2022年10月，一莖書房（いっけいしょぼう）
※テキストは学生生協に近日中に入荷予定です。

## 参考文献

・佐藤昌宏（2018）EdTechが変える教育の未来，インプレス
・堀田龍也ほか（2020）学校アップデート，さくら社

## 関連する授業科目

情報機器操作：基本的なPCの操作や、ファイルやフォルダの扱い、Office等のソフトウェアの利用に慣れておいてください。
次世代型学習デザイン論：本講義の学びを土台にして、より実践的な学習デザイン力を育むことを目的とした講義です。

## オフィス・アワー

月曜 10:00-12:00　札幌校　A研究棟 505号研究室
メール受付：sato.masanori@s.hokkyodai.ac.jp

## 備考（履修上の注意等）

コンピュータを積極的に活用しながら授業を進めます。お持ちのノートパソコン（インターネットに接続ができるもの）をご持参ください。
受講者の人数によって、教室の変更や、ワーク形式での活動を行う場合があります。

## 教育実習やインターンシップ等

## 実務経験

有：授業担当者は札幌市公立小学校６年間、東京学芸大学附属小学校６年間、学校での実務経験がある。ICT活用やプログラミング教育の実践研究を重ねてきた経験等を教職を目指す学生と共有しながら授業を進めていきます。

# シラバス詳細

タイトル「2025年度」、カテゴリ「釧路校」

## 科目情報

| | |
|---|---|
| **科目名**<br>情報教育実践論 | **クラス**<br>01 |
| **担当教員**<br>佐藤　正範 | **実務経験のある教員による講義** |
| **開講学期**<br>前期 | **開講時期**<br>1Q　～　2Q |
| **曜日・時限**<br>集中講義 | **講義室**<br>講義室未設定 |
| **科目種別** | **ナンバリング**<br>UKZ-MSG-3-008J、UZZ-MSG-3-008J |
| **科目区分**<br>道徳･生徒指導等 | **単位区分**<br>選 |
| **単位数**<br>2 | **準備事項** |
| **備考** | **直接参照URL**<br>https://huelc-eis.hokkyodai.ac.jp/lcu-web/SC_06001B00_22/referenceDirect?subjectID=202800011827&formatCD=1 |

## 講義情報

### 授業形態

PCを使った演習に重点を置いた講義形態

### 授業概要

これまで学校にICT機器が導入された経緯やプロセスをふまえ、Society5.0時代の教育の在り方を検討する。また、授業におけるICT（情報通信技術）活用、情報活用能力の育成、校務の情報化等の方法や先進実践、デジタル時代の「読み・書き・そろばん」である数理・データサイエンス・AIに関する基礎的な内容を学ぶとともに、ICTを活用した授業づくりや情報活用能力を育む授業プランを作成して検討することで、具体的な指導計画をたてる。

### 対応するディプロマ・ポリシー

#### 教員養成課程

教育に関する理論及び方法を活かし，教育実践を展開する基礎を身に付けている。
学校づくりを担う一員としての役割を理解し，社会性やコミュニケーション能力を養い，地域等と連携・協働する態度を身に付けている。

### 到達目標

・学校現場において視聴覚機器やコンピュータ等が導入された経緯やプロセスを理解する。
・学校現場においてICT機器を活用することの意義や課題、今後の活用方法を説明できる。
・授業におけるICT活用及び情報活用能力育成の方法を理解し、指導計画を立案できる。
・デジタル時代の「読み・書き・そろばん」である数理・データサイエンス・AIに関する基礎的な内容（数理・データサイエンス・AIを学ぶことの意義や社会における利用動向・問題、基礎的な技術の概要）を学ぶ。

### 授業計画

第１回：情報共有の基礎
第２回：Society5.0及びAI時代の社会と教育
第３回：プログラミング教育から情報を考える①（基礎）
第４回：プログラミング教育から情報を考える②（応用）
第５回：EdTechの活用① (データの収集)
第６回：EdTechの活用② (データの編集)
第７回：EdTechの活用③ (データの表現)

第８回：数理データサイエンス①（基礎）
第９回：数理データサイエンス②（応用）
第10回：社会における生成AI利用を考える
第11回：機械学習の基礎
第12回：情報モラル教育とデジタルシティズンシップの育成
第13回：コミュニケーションデザインの立案
第14回：コミュニケーションデザインの実装
第15回：デジタルアーカイブの作成

## 成績評価

【評価方法】
授業における課題とリフレクションを点数化して行う。
授業内外の課題（80%）、リフレクション（20%）

【評価基準】
Ａ…９０点以上
Ｂ…８０～８９点
Ｃ…７０～７９点
Ｄ…６０～６９点
Ｆ…５９点以下

【欠席の取扱い】
全ての講義に出席することが前提となります。ただし，やむを得ない理由により欠席した場合は，課題の提出などによって出席に代えます。

## 教職チェックリスト

### 1 学習指導

・学習意欲に関する理解、教育課程の意義や編成の方法、教授方法や教授技術、教材論（教材・教具や情報機器の基本的な活用法を含む）
1-3-2-3 授業づくりの資料収集・資料作成、教材・教具作成にICT機器や書籍を有効に活用する。
1-3-3-6 授業での子どもの状況把握や評価のためにICT機器を有効に活用する。

## 教職チェックリスト（自由記述）

## テキスト

『ICTを活用したこれからの学び』2022年10月，一莖書房（いっけいしょぼう）
※テキストは学生生協に近日中に入荷予定です。

## 参考文献

・佐藤昌宏（2018）EdTechが変える教育の未来，インプレス
・堀田龍也ほか（2020）学校アップデート，さくら社

## 関連する授業科目

情報機器操作：基本的なPCの操作や、ファイルやフォルダの扱い、Office等のソフトウェアの利用に慣れておいてください。
次世代型学習デザイン論：本講義の学びを土台にして、より実践的な学習デザイン力を育むことを目的とした講義です。

## オフィス・アワー

月曜 10:00-12:00　札幌校 未来の学び協創研究センター 教育工学研究室
メール受付：sato.masanori@s.hokkyodai.ac.jp

## 備考（履修上の注意等）

釧路校は前期集中講義で実施します。３年生以上で受講可能な教職選択科目です。
日程：２０２５年９月１日（月）～３日（水）各日共通１限～５限✕３日間
コンピュータを積極的に活用しながら授業を進めます。お持ちのノートパソコン（インターネットに接続ができるもの）をご持参ください。
実施教室：403号教室 予定（確定後、LCUと掲示板で連絡をします）
受講者の人数によって、教室の変更や、ワーク形式での活動を行う場合があります。

## 教育実習やインターンシップ等

## 実務経験

有：授業担当者は札幌市公立小学校６年間、東京学芸大学附属小学校６年間、学校での実務経験がある。ICT活用やプログラミング教育の実践研究を重ねてきた経験等を教職を目指す学生と共有しながら授業を進めていきます。

# シラバス詳細

タイトル「2025年度」、カテゴリ「函館校」

## 科目情報

| | |
|---|---|
| **科目名**<br>情報教育実践論 | **クラス**<br>01 |
| **担当教員**<br>佐藤　正範 | **実務経験のある教員による講義** |
| **開講学期**<br>後期 | **開講時期**<br>3Q　～　4Q |
| **曜日・時限**<br>集中講義 | **講義室**<br>講義室未設定 |
| **科目種別** | **ナンバリング** |
| **科目区分**<br>学科共通(教育ﾏｲﾝﾄﾞ) | **単位区分**<br>選 |
| **単位数**<br>2 | **準備事項** |
| **備考** | **直接参照URL**<br>https://huelc-eis.hokkyodai.ac.jp/lcu-web/SC_06001B00_22/referenceDirect?subjectID=202800011814&formatCD=1 |

## 講義情報

**授業形態**

講義とPCを使った演習

**授業概要**

これまで社会にICT機器が導入された経緯やプロセスをふまえ、Society5.0時代の教育の在り方を検討する。また、コミュニケーションにおけるICT（情報通信技術）活用、情報活用能力の育成、校務の情報化等の方法や先進実践、デジタル時代の「読み・書き・そろばん」である数理・データサイエンス・AIに関する基礎的な内容を学ぶとともに、ICTを活用したコミュニケーションについて企画立案できる素養を育む。

**対応するディプロマ・ポリシー**

**国際地域学科 地域協働専攻**

教育学的視点と地域学の基本的知識を身に付けている。
地域社会の課題を調査・研究し，その成果を国際的視野を持って他者に伝えるコミュニケーションの能力と方法を身に付けている。

**国際地域学科 地域教育専攻**

地域学の視点及び教育学の基本的知識，教職における使命感，責任感を身に付けている。
初等教育と特別支援教育に関する専門的知識と技能を身に付けている。
グローバル化した現代社会における子どもの教育問題を俯瞰的に捉え，国際的視野を持って考える態度を身に付けている。
地域の教育課題を理解し，学校教育を通して課題解決に取り組む主体的姿勢を身に付けている。
地域の教育課題を調査・研究し，その成果を国際的視野を持って他者に伝えるコミュニケーションの能力と方法を身に付けている。

**到達目標**

・社会にコンピュータ等が導入されてきた経緯や活用状況の現状を理解する。
・ICT機器を活用することの意義や課題、今後の活用方法を説明できる。
・ICT活用及び情報活用能力育成の方法を理解し、必要なコミュニケーションに活かすことができる。
・デジタル時代の「読み・書き・そろばん」である数理・データサイエンス・AIに関する基礎的な内容（数理・データサイエンス・AIを学ぶことの意義や社会における利用動向・問題、基礎的な技術の概要）を学ぶ。

**授業計画**

第１回：情報共有の基礎
第２回：Society5.0及びAI時代の社会と教育
第３回：プログラミング教育から情報を考える①（基礎）
第４回：プログラミング教育から情報を考える②（応用）
第５回：EdTechの活用① (データの収集)
第６回：EdTechの活用② (データの編集)
第７回：EdTechの活用③ (データの表現)
第８回：数理データサイエンス①（基礎）
第９回：数理データサイエンス②（応用）
第10回：社会における生成AI利用を考える
第11回：機械学習の基礎
第12回：情報モラル教育とデジタルシティズンシップの育成
第13回：コミュニケーションデザインの立案
第14回：コミュニケーションデザインの実装
第15回：デジタルアーカイブの作成

## 成績評価

【評価方法】
授業における課題とリフレクションを点数化して行う。
授業内外の課題（80%）、リフレクション（20%）

【評価基準】
Ａ…９０点以上
Ｂ…８０～８９点
Ｃ…７０～７９点
Ｄ…６０～６９点
Ｆ…５９点以下

【欠席の取扱い】
全ての講義に出席することが前提となります。ただし，やむを得ない理由により欠席した場合は，課題の提出などによって出席に代えます。

## 教職チェックリスト

### 1 学習指導

・学習意欲に関する理解、教育課程の意義や編成の方法、教授方法や教授技術、教材論（教材・教具や情報機器の基本的な活用法を含む）
1-3-2-3 授業づくりの資料収集・資料作成、教材・教具作成にICT機器や書籍を有効に活用する。
1-3-3-6 授業での子どもの状況把握や評価のためにICT機器を有効に活用する。

## 教職チェックリスト（自由記述）

## テキスト

『ICTを活用したこれからの学び』2022年10月，一莖書房（いっけいしょぼう）
※テキストは学生生協に近日中に入荷予定です。

## 参考文献

・佐藤昌宏（2018）EdTechが変える教育の未来，インプレス
・堀田龍也ほか（2020）学校アップデート，さくら社

## 関連する授業科目

情報機器操作：基本的なPCの操作や、ファイルやフォルダの扱い、Office等のソフトウェアの利用に慣れておいてください。

## オフィス・アワー

月曜 10:00-12:00　札幌校 A研究棟 505号研究室
メール受付：sato.masanori@s.hokkyodai.ac.jp

## 備考（履修上の注意等）

コンピュータを積極的に活用しながら授業を進めます。お持ちのノートパソコン（インターネットに接続ができるもの）をご持参ください。
実施教室：確定次第、LCU等で連絡を行います。
受講者の人数によって、教室の変更や、ワーク形式での活動を行う場合があります。

## 教育実習やインターンシップ等

## 実務経験

有：授業担当者は元建築設計デザインのエンジニアを務め、札幌市公立小学校６年間、東京学芸大学附属小学校６年間、企業と学校現場での実務経験がある。ICT活用やプログラミング教育の実践研究を重ねてきた経験等を学生と共有しながら、学生さんのアクティブラーニングを土台として講義を進めていきます。

# シラバス詳細

タイトル「2025年度」、カテゴリ「岩見沢校」

## 科目情報

| | |
|---|---|
| **科目名**<br>情報教育実践論 | **クラス**<br>01 |
| **担当教員**<br>佐藤　正範 | **実務経験のある教員による講義** |
| **開講学期**<br>後期 | **開講時期**<br>3Q　～　4Q |
| **曜日・時限**<br>集中講義 | **講義室**<br>講義室未設定 |
| **科目種別** | **ナンバリング**<br>UIY-RDS-7-045J |
| **科目区分**<br>研究発展 | **単位区分**<br>選 |
| **単位数**<br>2 | **準備事項** |
| **備考** | **直接参照URL**<br>https://huelc-eis.hokkyodai.ac.jp/lcu-web/SC_06001B00_22/referenceDirect?subjectID=202800011813&formatCD=1 |

## 講義情報

**授業形態**

講義とPCを使った演習

**授業概要**

これまで社会にICT機器が導入された経緯やプロセスをふまえ、Society5.0時代の教育の在り方を検討する。また、コミュニケーションにおけるICT（情報通信技術）活用、情報活用能力の育成、校務の情報化等の方法や先進実践、デジタル時代の「読み・書き・そろばん」である数理・データサイエンス・AIに関する基礎的な内容を学ぶとともに、ICTを活用したコミュニケーションについて企画立案できる素養を育む。

**対応するディプロマ・ポリシー**

**芸術・スポーツ文化学科 芸術・スポーツビジネス専攻**

豊かな人間性と感性，幅広い知性と教養，それらを社会に活かすコミュニケーション能力を身に付けている。
諸芸術，スポーツをはじめとする人間文化，及び芸術・スポーツ文化の社会における役割について，基本的な知識や技能，広い見識，行動で示す実践精神を身に付けている。
芸術・スポーツビジネスの観点から，使命感を持って地域社会に貢献する態度を身に付けている。

**芸術・スポーツ文化学科 音楽文化専攻**

豊かな人間性と感性，幅広い知性と教養，それらを社会に活かすコミュニケーション能力を身に付けている。
諸芸術，スポーツをはじめとする人間文化，及び芸術・スポーツ文化の社会における役割について，基本的な知識や技能，広い見識，行動で示す実践精神を身に付けている。

**芸術・スポーツ文化学科 美術文化専攻**

豊かな人間性と感性，幅広い知性と教養，それらを社会に活かすコミュニケーション能力を身に付けている。
諸芸術，スポーツをはじめとする人間文化，及び芸術・スポーツ文化の社会における役割について，基本的な知識や技能，広い見識，行動で示す実践精神を身に付けている。

**芸術・スポーツ文化学科 スポーツ文化専攻**

豊かな人間性と感性，幅広い知性と教養，それらを社会に活かすコミュニケーション能力を身に付けている。
諸芸術，スポーツをはじめとする人間文化，及び芸術・スポーツ文化の社会における役割について，基本的な知識や技能，広い見識，行動で示す実践精神を身に付けている。

**到達目標**

・社会にコンピュータ等が導入されてきた経緯や活用状況の現状を理解する。
・ICT機器を活用することの意義や課題、今後の活用方法を説明できる。
・ICT活用及び情報活用能力育成の方法を理解し、必要なコミュニケーションに活かすことができる。
・デジタル時代の「読み・書き・そろばん」である数理・データサイエンス・AIに関する基礎的な内容（数理・データサイエンス・AIを学ぶことの意義や社会における利用動向・問題、基礎的な技術の概要）を学ぶ。

## 授業計画

第１回：情報共有の基礎
第２回：Society5.0及びAI時代の社会と教育
第３回：プログラミング教育から情報を考える①（基礎）
第４回：プログラミング教育から情報を考える②（応用）
第５回：EdTechの活用① (データの収集）
第６回：EdTechの活用② (データの編集)
第７回：EdTechの活用③ (データの表現）
第８回：数理データサイエンス①（基礎）
第９回：数理データサイエンス②（応用）
第10回：社会における生成AI利用を考える
第11回：機械学習の基礎
第12回：情報モラル教育とデジタルシティズンシップの育成
第13回：コミュニケーションデザインの立案
第14回：コミュニケーションデザインの実装
第15回：デジタルアーカイブの作成

## 成績評価

【評価方法】
授業における課題とリフレクションを点数化して行う。
授業内外の課題（80%）、リフレクション（20%）

【評価基準】
Ａ…９０点以上
Ｂ…８０～８９点
Ｃ…７０～７９点
Ｄ…６０～６９点
Ｆ…５９点以下

【欠席の取扱い】
全ての講義に出席することが前提となります。ただし，やむを得ない理由により欠席した場合は，課題の提出などによって出席に代えます。

## 教職チェックリスト

### 1 学習指導

・学習意欲に関する理解、教育課程の意義や編成の方法、教授方法や教授技術、教材論（教材・教具や情報機器の基本的な活用法を含む）
1-3-2-3 授業づくりの資料収集・資料作成、教材・教具作成にICT機器や書籍を有効に活用する。
1-3-3-6 授業での子どもの状況把握や評価のためにICT機器を有効に活用する。

## 教職チェックリスト（自由記述）

## テキスト

『ICTを活用したこれからの学び』2022年10月，一莖書房（いっけいしょぼう）
※テキストは学生生協に近日中に入荷予定です。

## 参考文献

・佐藤昌宏（2018）EdTechが変える教育の未来，インプレス
・堀田龍也ほか（2020）学校アップデート，さくら社

## 関連する授業科目

情報機器操作：基本的なPCの操作や、ファイルやフォルダの扱い、Office等のソフトウェアの利用に慣れておいてください。

## オフィス・アワー

月曜 10:00-12:00　札幌校 A研究棟 505号研究室
メール受付：sato.masanori@s.hokkyodai.ac.jp

## 備考（履修上の注意等）

コンピュータを積極的に活用しながら授業を進めます。お持ちのノートパソコン（インターネットに接続ができるもの）をご持参ください。
実施教室：確定次第、LCU等で連絡を行います。
受講者の人数によって、教室の変更や、ワーク形式での活動を行う場合があります。

## 教育実習やインターンシップ等

## 実務経験

有：授業担当者は元建築設計デザインのエンジニアを務め、札幌市公立小学校６年間、東京学芸大学附属小学校６年間、企業と学校現場での実務経験がある。ICT活用やプログラミング教育の実践研究を重ねてきた経験等を学生と共有しながら、学生さんのアクティブラーニングを土台として講義を進めていきます。